

自由を取り戻す

敬愛学園高等学校

1年 南 颯馬

私は今まで、北朝鮮拉致問題について深く

考えたことはありませんでした。それは、心

のどこかで、自分とは関係のないことだ。と

う思っていたからにほかなりません。先日、

この作文を書くにあたり、アニマ「めぐみ」

を視聴しました。北朝鮮拉致問題の悲惨な実

情を目の当たりにし、私の持つ「こいたイメー

ジ」が、ただ生温かっただか痛感しました。

タンカーに入れられ、必死に助けを求めるめ

ぐみさんの叫びを聞いて、とても人事とは思

えませんでした。

二〇二〇年六月五日、めぐみさんの父であ

る、横田滋さんがお亡くなりになりました。

滋さんはめぐみさんの帰環を求める運動に後

半生を捧げました。めぐみさんとの再会を果

たせず、この世を去った滋さんがどんなに無

念でやるせない気持ちだっただか、私には計り

知れませんが。しかし、私たちは滋さんのめぐ
 升さんを助けたいという思いを受け継ぐこと
 ができます。
 この問題を解決するにはまず、私たち国民
 が拉致問題に関心を持ち、自分の意見を発信
 することが重要だと考えます。より多くの人
 に拉致問題について知ってもらおう手段とし
 SNSの活用が挙げられます。その一例とし
 て、政府主体のSNS上での意見交換会など
 が効果的だと思います。SNS上であれば、
 普段イヤントなどに足を運ばない人や、対人
 が苦手な人でも参加でき、尚且つより多くの
 人とたくさんさんの意見を交換することができ
 と思うからです。
 拉致被害にあっているのは日本人だけでは
 ありません。現在判明している拉致被害者の
 出身国は十四か国に上ります。拉致被害者を
 取り戻すにはこれらの国と協力する必要があ
 ります。私は拉致被害国で、あらゆる世界情
 勢に左右されない、拉致被害者を取り戻すと

いう目的だけを持つた組織をつくることを提案します。拉致被害国が協力して国際社会に訴え続けければ、北朝鮮に対してかなりの圧力をかけることができると思っています。

拉致は自由を奪う深刻な人権問題です。私たちはこの問題を重く受け取れ、解決に向かわなければなりません。私は拉致問題解決のため、今、自分ができるところを考えました。一つは、NATOを通じて拉致問題に関心を持つ人を増やすことです。今よりも多くの人が、

拉致問題を「解決しなければならぬ問題」として意識することが解決への大きな前進になると思います。もう一つは、ブルジョアを着用することです。購入することです。支援金を送れ、拉致被害者の帰環を求める意志表示にもなります。

北朝鮮拉致問題の解決を後押しするのは私たち一人一人の声と行動です。今こそ国民一人一人が声を上げ、他国と協力し、北朝鮮に立ち向かうときなのではないでしょうか。